

# 職員調査 集計結果

## 京都市桂徳児童館

調査期間：平成 29 年 4 月 17 日～ 4 月 28 日

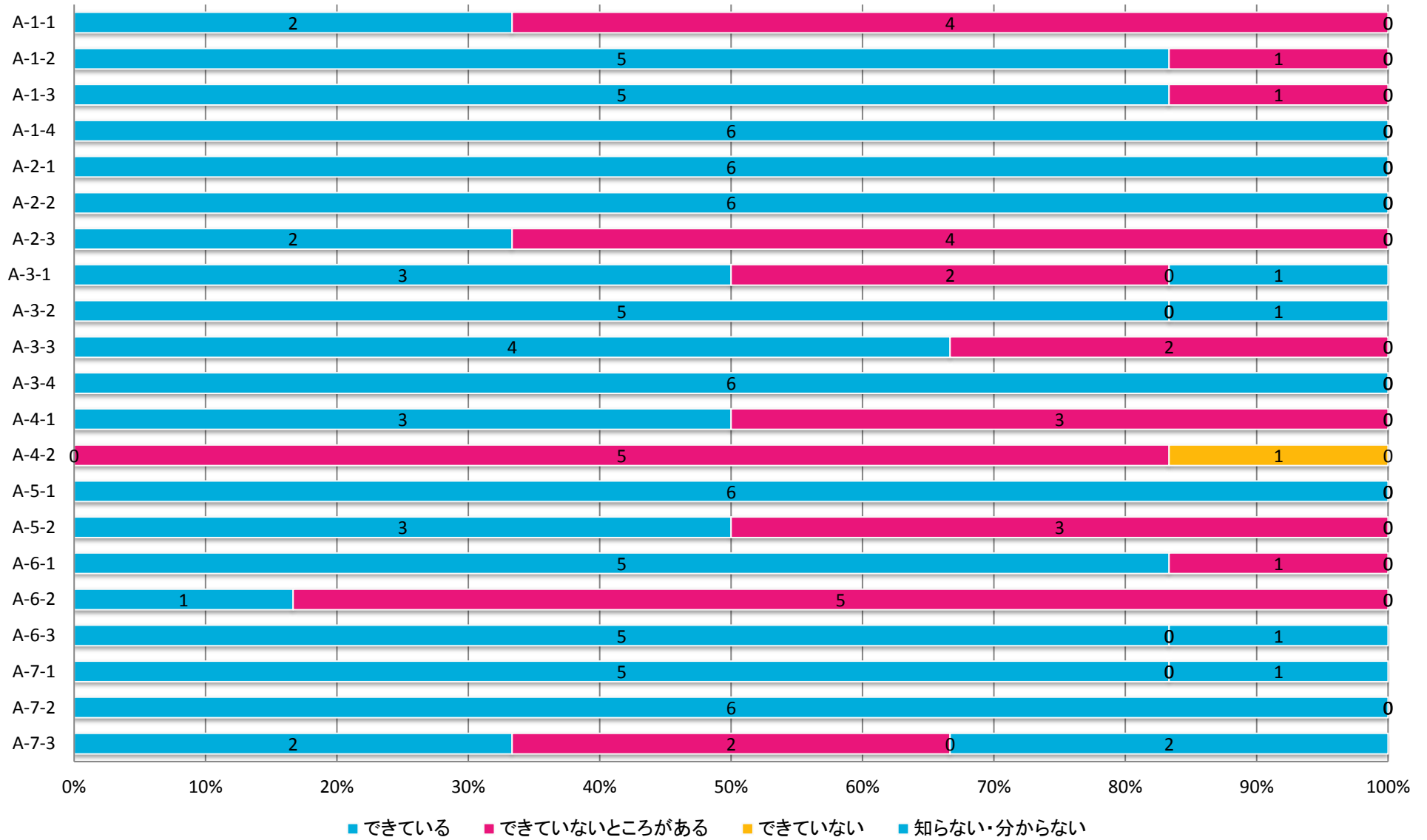
回答数：6 名

一般財団法人 児童健全育成推進財団 第三者評価室

職員調査 施設名:京都市桂徳児童館 6名

評価項目	標準項目	評価(4段階のうちどれか1つに○)			
		できている	できていないところがある	できていない	知らない/分からない
A-1 遊びの環境整備を行っている	1. 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	2	4	0	0
	2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	5	1	0	0
	3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	5	1	0	0
	4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	6	0	0	0
A-2 乳幼児と保護者への対応を行っている	1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している	6	0	0	0
	2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	6	0	0	0
	3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	2	4	0	0
A-3 小学生への対応を行っている	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	3	2	0	1
	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	5	0	0	1
	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	4	2	0	0
	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	6	0	0	0
A-4 中学生・高校生世代への対応を行っている	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	3	3	0	0
	2. 中学生・高校生世代の子どもが自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	0	5	1	0
A-5 子どもの権利を尊重した支援を行っている	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	6	0	0	0
	2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	3	3	0	0
A-6 配慮を要する児童・家庭への支援を行っている	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	5	1	0	0
	2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	1	5	0	0
	3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	5	0	0	1
A-7 地域の児童の育成環境づくりを行っている	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	5	0	0	1
	2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	6	0	0	0
	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	2	2	0	2

# 京都市桂徳児童館 職員調査 選択項目



評価項目	自由記述
A-1 遊びの環境整備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児から中高生まで、誰でも来館されたら明るくあいさつ・出迎えを職員全員が心がけ、いつでも気軽に来館できるようにしている。</li> <li>・①の項目について理解できるように館内の表示や収納表示等整備はおこなっているが、小学生児童に対して理解が得られているかは改善点があると思っている。</li> <li>・②においては日々気軽に利用できる環境は自信を持ち整えている。実際年々利用者の人数は増加し、数字としても表れ、利用者アンケートにも結果は表れている。小学校のグラウンドも利用でき、場所の整備はできている。</li> <li>・④0～18歳までの児童を対象とする児童館の特性は大いに発揮し活動している。</li> <li>・年齢に幅広い遊び道具があり、乳幼児さんが来られた時はマットなどを敷き、心配りをしている。</li> <li>・遊びのきまりについて伝えているが、理解できるようにできているかわからない。誰もが理解できるような工夫が必要だと思う。</li> <li>・①カードに書き掲示する、色を分けるなど分かりやすくなっている。</li> <li>・②高いところにおいてある、つまあげて片づけるなど子どもが気軽にといつた時に難しい場合もある。</li> <li>・④中高生とも一緒にあそぶなどもあるため。</li> <li>・あそぶ際のルール等、初めて来館される方には口頭でお伝えしたり、おもちゃの片づけ方を写真で掲示したりしているが、おもちゃの入れ替わりもあり、少しわかりづらいかもしれない。また、乳幼児から中高生までが気軽に利用できるように環境づくりをしているつもりだが、学童の生活もあるので、すごせる場が限られてしまい、思うように利用できていない方もいらっしゃると思う。</li> </ul>
A-2 乳幼児と保護者への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士が交流する機会は設けているが、企画・運営に保護者が参加することができていないと感じる。年度末にアンケートを実施し、保護者ニーズを拾って企画を考えている。</li> <li>・年々利用者も増え、日常的に利用されている。広場やクラブがない日も気軽に利用できるよう工夫もしている。利用者のニーズに基づいて年々改善をおこない、利用者が気持ちよく利用できるように努力している。ほっこり子育て広場等同じ年代の子どもを抱える親同士が交流できたり、話し合ったりできる場を設定し、意識して取り組んでいる。玄関で出迎え見送り一言声かけを忘れずおこなっている。</li> <li>・学童までの時間、育成室を開放してお友だち同士でお昼を持参して食べていただいている。お母さんたちも楽しそうにおしゃべりしておられます。</li> <li>・乳幼児親子がいつ来館されても過ごしていただける場を提供できていると思う。夏休み等、小学生が朝から利用している際も、共に過ごせるよう配慮したり、時には空間を分けて利用していただいています。</li> <li>・いつでも来館してあそべる環境ができている。</li> <li>・乳幼児ひろばでは、利用者アンケートの結果や日々の利用者(保護者)からの声も取り入れながら活動内容を考えている。常連の方も多く利用してくださっている。</li> </ul>
A-3 小学生への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無を超えて、一緒にあそんだり、取り組みに参加したりしているが、お互いの理解を深め合えるまではできていないと感じる。障害に対する偏見や人を傷つける言葉がけなどがあつた時は、その都度話し合いをするなどおこなっている。</li> <li>・小学生においては取り組みの成果がみられるよう力を入れて活動している。子ども達が達成感を感じ次も頑張りたいと思えるように関わり、その成果も目でみてわかる工夫や集団で取り組むことで力を発揮できるように関わっている。前年度より子ども達の自主性や企画参加に力を入れておこなっている。桂徳ではけん玉ダンスを通じて障害の有無に関わらず仲間として関わり取り組むことができる評価を得ている。全てにおいて意識して声かけもおこなっている。</li> <li>・学童さん以外の生徒さんも取り組みに参加しています。(図工教室やクラブ等)</li> <li>・子どもに応じた対応を心がけている。配慮の必要な子に対して、理解しやすい方法で援助し、登録数が多い中でも過ごしやすいう働きかけをしています。</li> <li>・個別に援助が必要な子には横にいっしょにいるなどの援助をしている。</li> <li>・子ども一人ひとりの状態や心理を考慮しているつもりではあるが、毎日たくさん子ども達が利用している中で、気づいてあげられないことも多々ある。連絡帳等で保護者の方から報告を受けたりもするので、そのつど対応するようにはしている。</li> </ul>

<p>A-4 中学生・高校生世代への対応を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生の利用が数年前まではなかったため、これから思春期児童の取り組みを強化していきたいと考えている。子どもたちの声から企画など考えていきたい。</li> <li>・中学生の利用は増えてきているが、改善の部分はあると考える。次年度、次世代育成に力を入れ活動するよう企画している。ただし、中高生利用の際は小学生や乳幼児親子とも積極的に関われるよう育成に力を入れている。</li> <li>・あまり来館がいません。</li> <li>・5時から中高生の時間とし、2階の図書室、遊戯室を開放している。</li> <li>・部活動をしっかりやっている子が多いため、利用者数は多くないが、来館した際過ごしやすいように場所の提供等をおこなっています。</li> <li>・小学校の高学年から中高生対象のクラブはあるが、中高生の登録はない。今年の4月から中学生になった子たちは春休みからよく遊びに来てくれるが、部活が始まれば忙しくなるだろうし、来館が減るかもしれない…。チラシを作成し、工夫はしているが、新しい来館にはつながっていない。(今のところ)</li> </ul>
<p>A-5 子どもの権利を尊重した支援を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動では子どもの意見や声を聞きながら、取り組みを考えている。普段から子どもとのコミュニケーションに気をつけ、困ったことがあったら相談できるよう関わっている。</li> <li>・トラブルなどがあった時は双方の意見を聞き、中立の立場で対応する。</li> <li>・クレスペでのおおげやしきなど、子どもからの声を聞いて進める事業があるため。</li> <li>・学童クラブ児童においては帰りの会やおやつの時間を使って子ども達に意見を聞く場(直接やり取りする場)を持っている。子ども相談室として困ったこと、いやな思いをしたことはいつでも聞くことについても子ども達に示している。利用もあり。</li> <li>・学年ごとに会議をおこなったり、日常的に子どもの声に耳を傾けるよう心がけ、相談された際、迅速に対応している。</li> <li>・月に1回学年ごとに会議をおこなったり、子ども相談室を館長が聞き、随時相談を受け付けている。業務もあるので必ずその時に対応することは難しい時もある。子どもの様子を見て、こちらから声をかけることもあるが、言えない悩みをかかえている子もいると思う。</li> </ul>
<p>A-6 配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある子に対する支援は、日々職員間で情報を共有しながら取り組んでいる。介助者の派遣もあるが、毎日ではないのでしっかりと支援ができていない状況がある。介助者がいない時は職員が見るなどおこなっている。</li> <li>・できれば1:1で対応できれば良いです。(障害のある児童に対して)保護者の申し出等は最後まできっちり対応する。</li> <li>・個々に話を聞き、その子に合った支援の仕方をしているため。</li> <li>・個別相談については丁寧におこなっている。個別のシートもあり対応している(学童クラブなら連絡帳もあり)。虐待を受けていると疑いを感じた時点で学校や行っていた保育園等と連携し、児相へ通報し対応をおこなっている。その後も小学校と特に密に話し合い、対応について相談している。一人ひとりに支援の策を考え対応できるようにしている。</li> <li>・児童への配慮はもちろん、保護者の相談や保育するにあたり必要な情報を共有するように心がけている。学童クラブ登録児童だけでなく、自由来館児の様子も気にかけるようにしている。</li> <li>・中には職員が忙しそうで相談できないとおっしゃる方もありますが、お迎え時や連絡帳にて相談がある。できる限り、児童館での様子をお伝えし、何かあれば相談してもらえよう心がけている。障害のある子どもに対して、その子に合った対応、支援をできるように保護者や出身園との連携をとったりもしているが、利用人数が多いため、十分な対応ができていないこともある。</li> </ul>
<p>A-7 地域の児童の育成環境づくりを行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区の連絡会にて、各機関(民協、社協、保育園、小学校、中学校など)の情報交換をおこない、一緒に連携して学区の子育て力をUPできるように取り組んでいる。</li> <li>・おたよりや取り組みのチラシ、地域のおまつりや児童館のイベント等で伝えられるように工夫している。異世代の交流や関わる取り組みを積極的におこなっている。また、地域で子ども達のために活動していただいている人たちを紹介(児童館内)したり、おたよりの掲示等おこなっている。ステーション事業等を通じて地域の子育て環境について話す機会を定期的に持ち、おこなっている。</li> <li>・日頃から地域の方と交流をもち、地域と子ども・家庭を繋ぐことができるようにしている。地域の方も招いた取り組みをおこない、顔を覚えていただけるように取り組んでいる。</li> <li>・地域の方に手伝い、協力していただき、事業を運営することもある。また、民協の方とも協力がある。</li> <li>・民生さんによるひろばや、地域の方に講師として来ていただき、クラブや教室を実施している。学童の子だけでなく、自由来館の子も参加してくれている。</li> </ul>